

中学校国語科年間カリキュラムに関する研究

—大村はま昭和54年度の実践を中心に—

坂 東 智 子

Study on the annual curriculum of junior high school language arts :
Focusing on teaching practice of Hama Omura of 1979

BANDO Tomoko

(Received September 30, 2016)

1. はじめに

本研究は、大村はまが昭和54年度に行った大田区立石川台中学校1年生の国語科年間カリキュラムの具体を、鳴門教育大学附属図書館大村はま文庫に所蔵されている45冊の学習記録（学習者がそれぞれまとめたもの）を資料として解明し、中学校入門期における古典学習指導と他の国語学習の連関関係、年間の国語カリキュラムにおいて古典学習指導が担っていた役割を明らかにする研究の一部である。

筆者はこれまでに、昭和54年度1年B組8冊の学習記録と大村はま作成の国語教室通信を資料として、年間の国語学習項目を調査し一覧表を作成した¹⁾。54年度は大村はま公職最後の年にあたり、52、53、54年と3年間連続して中学1年生を担当した最後の年である。筆者は、54年は、大村はまが改良に改良を重ね、さまざまな工夫を具体化した結果の、いわば大村はまの到達点としての中学1年の国語科年間カリキュラムであるという仮説をもっている。そこで、本研究では、昭和54年度と50年度の中学1年生の国語科年間カリキュラムを比較して分析考察を行い、改善改良された具体的な事実の詳細を解明する。これにより、大村が中学校入門期の国語科年間カリキュラムにおいて目指していたものの具体を明らかにする。

全集には、大村はまが執筆した、「単元学習の成熟」²⁾、「学習記録の出発」³⁾がある。大村はま単元学習の経年的な歩みや、学習記録指導の工夫のあとを知ることができる。個々の単元の実際は、「鑑賞のための朗読」⁴⁾、「単元 古典のなかに見つけた子ども」⁵⁾、「単元 知ろう 世界の子どもたちを」⁶⁾などの指導記録を手掛かりに捉えることができよう。本研究ではこれらを参考にしつつ、カリキュラムの視点を新に加える。ひとつひとつではなくひとまとまりとして。連続体として大村はま実践を捉えようとする研究である。研究方法としては、学習記録および大村の国語教室通信をもとに、54年度、50年度両年度の、a) 年間の国語学習項目一覧表、b) 1学期に配布されたプリントの一覧表、c) 1学期に配布されたプリント内容の3資料を作成して、分析考察を行う。

2. 国語学習項目

2.1 昭和50年度1年A組、昭和54年度1年B組の学習項目

資料1 1年A組(昭50)国語学習項目⁷⁾

時間	月日	学習内容
1	4/14	一. 私は あの人は 二. お話
2	4/18	一. 学習記録を見て
3	4/18	
4	4/19	読書生活の用意
5		
6	4/22	一. 国語教室通信について二. いろいろのプリントにあることばについて
7	4/23	一. 「読書日記」の書き方 二. 回して読む本 三. 「題材集め」について 四. 「読みたい本」を書く
8	4/26	一. 教科書を見る 二. 便覧を見る 三. 文法の本を見る
9	4/26	
10	4/30	一. お話
11	5/6	一. 通信4号を読む 二. 朗読の練習
12	5/7	一. 自習「やさしい漢字教室」
13	5/10	一. 読書生活の評価 二. 通信を読む 三. 朗読を練習する
14	5/10	
15	5/11	一. 話し合いの進め方
16	5/13	一. 話し合いのしかた 二. 朗読の録音を聞く
17	5/14	一. 話し合い 朗読発表会について
18	5/17	一. 自習について 三. 文法の本を見る
19	5/17	
20	5/7	一. 自習「やさしい漢字教室」
21	5/20	一. 記録を整える 二. 発表会の準備
22	5/24	一. 日程
23	5/24	
24	5/26	毛筆習字
25	5/27	中間テスト
26	5/31	朗読発表会 第一. 二. 三. 四. 五グループ
27	5/31	”
28	6/2	暗唱「大志」清書
29	6/3	朗読発表会 第三. 六グループ
30	6/4	テストの答案を見て 一. お話一
31	6/7	朗読発表会 第七. 八. 九. 十グループ
32	6/7	”
33		
34	6/10	一. 朗読発表会から学んだこと
35	6/11	一. 書こう話そう

資料2 1年B組(昭54)国語学習項目⁸⁾

時間	月日	単元	学習内容
1	4/12		学習記録の書き方
2	4/16		学習記録の書き方
3	4/17		名前が書いてあるか検査
4	4/18		読む「中学校には」
5	4/19	導入・学習記録の書き方など	1. 「中学校には」を読んだ感想 2. 朗読と発表
6	4/21		民話を読む
7	4/23		朗読と発表
8			8~9は不明
10	4/26		
11			テスト
12	5/1		1. テストの始末 2. 読書生活の記録の書き方 3. 日記・読みたい本
13	5/2		先生が病気で本を読んだ
14	5/7		習字
15	5/8		「文章教室」を読む
16	5/10		1. 国語教室通信について 2. 読書生活の記録の書き方
17	5/12		発表会学習の進め方
18	5/14		「ひばりの子」を読む
19	5/15		発表会の内容、学習の進め方
20	5/16		グループで話し合う。朗読のくふうの仕方。
21	5/17		グループの話し合い
22	5/22	I	国語発表会の準備と練習
23	5/23	国語発表会	国語発表会の準備と練習朗読台本
24	5/24		国語発表会の準備と練習テストについて
25	5/26		国語発表会の準備と練習 プリントの始末
26	5/29		テスト
27	5/31		注意と評価、日程、練習
28	6/2		国語発表会第10グループ
29	6/5		国語発表会第9第8グ
30	6/6	II	ことばをひろげ深めよう
31	6/7	ことばを知ろう	もっとことばを知ろう
32	6/11	ことばを知ろう	ことばの意味と使い方
33	6/13	ことばを知ろう	いろいろなことばの使い分け
34	6/14	ことばを知ろう	1. よく知っていることばのいろいろな意味 2. 「話」を中心にいろいろの言葉文集
35	6/16		文集
36	6/17		国語発表会第7第6グ
37	6/19		テストの評
38	6/20		テストの確かめ、文集
39	6/21	I	国語発表会第5第4グ

36	6/13	クリちゃん	40	6/23	続き	国語発表会第3第2グ
37	6/14	クリちゃん	41	6/25		国語発表会第1グ, 講評
38	6/14	クリちゃん	42	6/26	学習記録	1.テストとは 2.夏休みの読書 3.記録のまとめ方
39	6/16	クリちゃん	43	6/27		1.学習記録のまとめ方 2.目次の作り方
40	6/16	クリちゃん	44	6/28		学習記録のまとめ
41	6/17	一. 通信の読み方を確かめる 二. 発表会の練習 ことば調べ	45	6/30		1.学習記録の仕上げ 2.木のうた 夏休みの読書
42	6/18	クリちゃん 一. 資料を整える 二. 発表の準備	46			46~50は学習記録のまとめ(推察)
43	6/20		51	7/11		学習記録の提出
44	6/21	一. 学びたいこと 考えなければいけないこと	52	7/14		読書生活の記録, 本紹介
45	6/23	ことば調べ	53	7/17		暑中見舞いの葉書を書く
46	6/24	一. 発表「こういうふうにしたかな」「こういうふうにしたかな」	54	7/18		文集
47	6/25	「クリちゃん」のおはなし 一発表一				
48	6/28	ことば調べ 一. 集める(一.) 二. 学習記録				
49	6/28					
50	6/30	ことば調べ 一. 風光 清書				
51	7/1	ことば調べ 一. さくいんの作り方 二. 記録をしあげる				
52	7/2	灯台とハマナデシコ 一. 記録の仕上げ				
53	7/5	テスト				
54	7/7	灯台とハマナデシコ 一. 真実の練習(習字)				
55	7/8	一. 記録のしあげ				
56	7/9	一. お話を書こう「灯台とハマナデシコ」によって				
57	7/12	”				
58	7/12	”				
59	7/14	暑中見舞い				
60	7/14	一. 夏休みの国語学習について二. 発表				
61	7/18	一. 夏休みの学習つづき	55	9/4	毛筆	55~58毛筆書写練習
62	9/2	一. 夏休みの学習の始末	59	9/11		毛筆書写(清書2枚提出)
63	9/2	一. 作文	60	9/12		夏休み読書記録の整理
64	9/4	作文を読む 一. みんなの空中ブランコ乗りのキキ	61	9/13		ことばのきまり
65	9/6	一. もう一作書く「空中ブランコ乗りのキキ」	62		III	不明
66	9/8	”	63	9/17	こ	文節
67	9/9	一. 学習記録を見直す	64	9/18	と	単語のいろいろ
68	9/10	一. 学習記録のあと書きによって考える	65	9/19	ば	品詞のいろいろ
69	9/13	一. 学習記録のあと書きから学ぶ	66	9/20		同じこと・色々のことば
70	9/14	暑中見舞い	67	9/25		「表現くらべ」学習準備
71		白銀の馬 一. さあ、よい作品を	68	9/26	IV	「表現くらべ」進め方
			69	9/27	表	「表現くらべ」進め方
			70	9/29	現	「表現くらべ」
			71	10/2		「表現くらべ」研究

72	9/17	一. 「白銀の馬」制作	72	10/3		「表現くらべ」発表準備
73	9/20	一. 白銀の馬	73	10/4		「表現くらべ」発表準備
74	9/22	一. 自分の名の練習	74	10/6	く	74~84「表現くらべ」発表と話し合
75	9/23	一. 読書生活通信の愛読者になろう	85	10/24	ら	「表現くらべ」まとめ
76	9/27	一. 白銀の馬 思い出になるようないい作品にしよう	86	10/25	べ	テスト評 読書生活の記録
77	9/27	〃	87	10/27		「表現くらべ」まとめ
78	9/29	白銀の馬 一. 文化	88	10/29		まとめの提出
79	9/30	白銀の馬 一. 予定の確認 二. 作品にかかる	89	10/30	V	意見を読む 育てる 書く
80	10/4	白銀の馬 一. ものを出すということ 二. 作品を少しでもよいものに	90	10/31	書	意見を読む 育てる 書く
81	10/4	〃	91	11/1	く	この絵がさし絵になるように物語りを書く
82	10/6	白銀の馬 一. 文化	92	11/5		絵に誘われて「私のお話」
83	10/7	一. 白銀の馬	93	11/6		「古典のなかに見つけた子ども」学習のあらまし
84	10/8	一. いい作品にいどむ	94	11/7		古典を読む
85			95	11/10	VI	古典を読む
86	10/11	一. いよいよ力をしばって	96	11/12	古	朗読テスト
87	10/13	白銀の馬 一. 文化	97	11/13	典	謡曲「天鼓」
88	10/14	一. 急がばまわれ おちついて書く 豊かに書く	98	11/14	の	謡曲「天鼓」
89	10/15	一. 作品を少しでもよいものに	99	11/15	な	担当のところを読む, 手引きを作る
90	10/18	中間テスト	100	11/17	か	練習 書くところ, 暗唱するところ今のことばにしてみる
91	10/20	白銀の馬 一. プリントを書く	101	11/19	に	「更級日記」の読む箇所の分担を決める
92	10/21	白銀の馬 一. プリントを書く	102	11/20	見	意味の確認と朗読練習
93	10/23	白銀の馬 一. プリント仕上げ	103	11/21	つ	研究授業の注意と練習
94	10/25	本を知る窓 一. 学習の進め方	104	11/22	け	研究授業 1.徒然草(243段)2.更級「あずまじの」
95	10/25	本を知る窓 一. 学習の進め方	105	11/24	た	テストについて
96	10/27	一. 本を知る窓を開こう	106	11/26	子	発表(更級「足柄山」)
97	10/27	一. 推薦の言葉や評を読んでみよう	107	11/27	ど	発表(更級「物語」)
98	10/29	一. 案内パンフレットでわかった事	108	11/28		発表(更級「大納言の姫君」)
99	10/30	一. 本を知る窓を一つあけて	109	11/29		テスト準備記録作成準備
100	11/1	一. 研究会の事 今日100時間め	110	12/3		期末テスト
101	11/4	一. 本を知る窓を一つあけよう	111	12/4		学力テスト
102	11/8	一. 本を知る窓まとめ 二. 白銀の馬まとめ	112	12/5		発表(枕草子)
103	11/8	〃	113	12/6		発表(源氏「若紫」)
104		吉田先生の授業	114	12/10		発表(宇治拾遺など)
105	11/15	私達の白銀の馬 一. 作文	115	12/11	VI	発表(堤中納言など)
106	11/15	〃	116	12/12	の	発表(義経記など)
107			117	12/13	続	発表(平家物語)
108	11/18	私達の白銀の馬 一. 仕上げて提出	118	12/14	き	発表(平家物語)
109	11/18	〃	119	12/17		発表(土佐日記)
110	11/19	一. 読書生活の記録	120	12/18		発表(土佐日記)
111	11/22	一. 表記の復習二.学習記録まとめ	121	12/19		学習記録のまとめ
			122	12/22		学習記録のまとめ
			123	1/9	VII	「このことばこそ」
			124	1/10	こ	1.このことばこそ 2.生活の場面を
			125	1/12	こ	「このことばこそ」
			126	1/14	こ	この気持ち, このようすを表わすことば
			127	1/16	ば	「このことばこそ」
			128	1/17	こ	「このことばこそ」
			129	1/19		「漫画について考える」学習の進め方
			130	1/21		1.アンケート提出 2.統計(グループで)
			131	1/22	VIII	アンケート整理
			132	1/23		アンケート整理
			133	1/24		漫画はよいということを表わすことばのいろいろ

112		読む人を読む 学習の準備	134	1/26	漫画をどうということばでほめているか
113	11/25	テストについて 目次あとがきについて	135	1/28	漫画について考える
114	11/26	一. 文節と文の成分 二. 読む人を読む 民話を読む	136	1/29	漫画について考える
115	11/29	一. きょうはたくさん読もう カードの とり方を確かめて	137	1/30	1. 予定確認 2. 資料の整理と調べ方
116	11/29	”	138	1/31	統計を見て考えたこと
117	12/3	一. テスト	139	2/2	統計の数字の中に見つけたこと (話し 合い)
118	12/4	一. テスト	140	2/4	私の意見まとめ方 (漫画)
119	12/6	読む人を読む 一. きょうはどんどん読 み進める カードをとる	141	2/5	考えを書く (漫画)
120	12/6	”	142	2/6	考えを書く (漫画)
121			143	2/7	考えを書く (漫画)
122	12/10	テストについて 白銀の馬について一. 本を読み進める	144	2/9	考えを書く仕上げて提出
123	12/11	話し合い 一. 話し合いのしかた 二. 話し合いの準備	145	2/12	話し合い 質問と意見
124		”	146	2/13	話し合いを豊かにするために意見を 読み考えを書く
125	12/16	一. 話し合い A・Bグループ	147	2/14	研究授業の準備 (話し合いの仕方, 話 し合いの内容を豊かにする)
126	12/17	一. 話し合い C・Dグループ	148	2/15	発表会 漫画について
127	12/20	一. 話し合い E・Aグループ	149	2/16	英語
128	12/20	一. 話し合い B・Cグループ	150	2/19	漫画について考える
129	12/23	一. 話し合い D・Eグループ	151	2/20	対談を聞く (漫画)
130	12/24	一. 三学期に備える二. 記録の整理	152	2/21	テストについて 漫画
131			153	2/23	考えを書く (漫画)
132	1/13	通信のくふう 一. 通信を生かすくふう を加えよう 二. 本を知る窓	154	2/25	テストについて
133		133~136まで不明	155	2/26	漫画について考える
137	1/19	NHKの放送 一. テスト 二. 放送を聞 く	156	2/27	資料を整える
138		138~140まで不明	157	3/3	期末テスト
141	1/24	文献探索 一. 文献探索	158	3/5	学力テスト
142	1/24	文献探索 二. 発表	159	3/6	IX 「知ろう世界の子どもたちを」 学習の進 め方
143	1/26	一. 習字	160	3/8	世界の子供達 文集提出 自分で調べる
144	1/27	文献探索 一. 文献探索	161	3/10	「知ろう〜」 調べていく
145	1/27	一. 文献一種でも多く探す	162	3/11	テスト評 「知ろう〜」
146	1/28	一. 文献一種でも多く探す	163	3/12	「知ろう〜」 発表会
147	1/31	一. 文献探索のまとめ 二. 「空中ブラン コ乗りのキキ」 (お話のつづきは?) 三. 次の単元	164	3/13	「知ろう〜」 発表会
148	2/2	集める 一. 集める	165	3/15	「もう一つの歩き方をさぐる」
149	2/3	集める (二) 一. このことばがこんなふ うに使われている	166	3/17	1. このことばこそ 2. お話会の準備
150	2/4	一. 集める分類 意味を調べる	167	3/22	お別れお話し
151	2/7	一. (自分の予定) 意味を調べる 自分で およそ分ける			
152	2/7	”			

153	2/9	一. 詩を書く 硬筆
154	2/10	集める(二)一. 分類(こまかい分類) 二. 通信・明夜の放送
155	2/14	集める 一. 分類(こまかい分類)
156	2/14	”
157	2/16	集める(二)一. 迎える二. 促す
158	2/17	集める(二)一. 仕上げに向かう
159	2/18	集める(二)一. プリント 促す
160	2/21	集める(二)一. あとの予定の確かめ 二. 大切な準備は 三. パネルディスカッションの手順
161	2/21	集める一. パネルディスカッション
162	2/23	集める(二)一. 報告
163	2/24	集める(二)一. 討議の準備
164	2/25	集める この例はどの分類に入る
165	2/26	集める 討議 これはどの分類だ
166	2/28	集める 討議 これはどの分類に
167		167~168は不明
169	3//6	私の編集 一. 「中等新国語」によって作る
170	3/6	”
171	3/8	私の編集一. 主題を探りながら読む
172	3/9	私の編集一. 主題を探りながら読む 二. 朗読の練習三. 索引の作成
173	3/10	私の編集 一. 朗読全員「杜子春」
174	3/13	私の編集 一. 朗読 女子全員
175		私の編集 一. 朗読 男子全員
176	3/16	私の編集 一. 学習記録のこと二. 私の編集まとめ
177	3/17	三学期のまとめ 私の編集 索引

3. 昭和50年度と54年度の比較

3.1 大村はま国語教室から

大村はまが50年度と54年度をどのように捉えていたのか、全集から引用する。

<50年度>

五十年、前から大切に考えていたことではあるが、達したい目標をそのまま、注意や指示にしないで、しぜんにその目標に向かわせ、目標を達するようにするということをまた、いっそう強く感じるようになり、そういうところにもとをおいて計画を立てたり学習活動を考えることがよい工夫、新しい工夫を生むことであると、今さらのように考えた。単元学習の教室は、そういうろこつな注意や指示のないところ、ほんとうの意味で自主的・主体的・意欲的なところなのだと思った。とくにこの気持ちを確認しようとするところもあって、「いきいきと話しなさい」と一度も言わずに、「いきいきと話す」ことを身につけさせる目的の単元を展開したりした。／また、本や雑誌、研究会、講演会などで勉強しえたことは、一つ一つ、単元学習のなかに取り入れて単元学習をこまかく見直していたともいえる⁹⁾。(傍線は筆者が付記した)

引用文中の「いきいきと話す」は、「単元 いきいきと話す」¹⁰⁾として全集に収められている。

1学期の6月13日～6月25日に行われたマンガ「クリちゃん」を資料として用いた単元である。「達したい目標をそのまま、注意や指示にしないで、しぜんにその目標に向かわせ、目標を達するようにする」ことが年間の国語学習の計画、実践の大前提となっていた。

<54年度>

五十三年度、五十四年度、教育の問題がやかましくなった。いろいろの意見を聞きながら「今こそ単元学習を」と叫びたい気がした。／一人一人を大切にすることも、力の弱い子どもをほんとうに救うことも、主体的に積極的に学習生活に取り組む意欲的な子どもにすることも、生きてはたらく学力を確実に養い、自分の育て方学び方を身につけさせることも、それは単元学習でこそと思った。そして真に一人一人に、自分なりに日々成長しているという自覚が持たせられたらその教室に底光りのような楽しさ明るさが生まれるにちがいないと思った。とにかく何かにつけて単元学習を見直し、確かめつつ、これこそという気持ちを深くした二年間であった。／単元としては少し程度の高いものを計画し、子どもたちをぎりぎりのところまで努力させたような気がする。／時の話題からは、「外来語の氾濫について考える」「まんがについて考える」、それに五十四年はちょうど国際児童年であったので、「知ろう世界の子どもたちを」、どれも充実した学習ができた。それに、古典の学習で、やさしいところとか、わかりやすいところ、有名なところという従来の観点によらず「古典のなかに見つけた子ども」として、そのすがたを追ってさまざまな古典を教材としたことは、古典の単元学習への一歩のつもりであった¹¹⁾。（傍線は筆者が付記した）

1970年代は、高度経済成長に伴って、高校大学への進学率が上昇し、激しい受験戦争が起こった時代である。「落ちこぼれ」や「校内暴力」といった問題が起こり「授業についていけない子ども」が増加した。教育の文脈では、「豊かな人間性」「ゆとりと充実」「基礎基本の重視」などがキーワードとなった。このような背景を考えて引用部を読みたい。

「主体的に積極的に学習生活に取り組む意欲的な子どもにする」「自分の育て方学び方を身につけさせる」という目標は、54年の年間国語カリキュラムを貫き、「学び方」の習得、実践は螺旋的に繰り返し行われている。つまり、54年は大村はまの強いカリキュラム意識によって組織された年間の国語授業であったといえよう。例えば、「話し合い」に注目して50年と54年を比較してみるとその違いがよくわかる。

3.2 資料1、資料2の「話し合い」に着目した比較

学習項目に「話し合い」が出ているのは、以下の部分である。

<昭和50年>

- ①14時間目（5/11）～17時間目（5/17）
- ②123時間目（12/11）～129時間目（12/23）

<昭和54年>

- ③20時間目（5/16）～21時間目（5/17）
- ④145時間目（2/13）～147時間目（2/14）

上の①と③に配布された、手引きの一部を以下に示す。①の手引き（後掲資料3）では、3. A今日相談してきめなければいけないことは、何々と、項目を羅列して示している。それに対して、昭和54年度③（後掲資料4）では、3. Aでは学習の手引きによって進めます、と「国語発表会」全体の学習の手引きをもとに、話し合いの仕方の手引きが作成されている。

資料3 昭和50年度 前掲①「グループの話し合い」の手引き

朗読発表会の準備
グループの話し合いは、こんなふうに

- 1 A(司会)では始めます。よろしくお願ひします。
- 2 B(司会) よろしくお願ひします。
- 3 A(司会) よろしくお願ひします。よろしくお願ひします。
- 4 A(司会) よろしくお願ひします。よろしくお願ひします。
- 5 A(司会) よろしくお願ひします。よろしくお願ひします。

朗読発表会の準備
朗読発表会での司会者
朗読発表会での司会者
朗読発表会での司会者
朗読発表会での司会者
朗読発表会での司会者

朗読発表会での司会者
朗読発表会での司会者
朗読発表会での司会者
朗読発表会での司会者
朗読発表会での司会者

資料4 昭和54年度 前掲②「国語発表会」の手引き

国語発表会 学習の手引き

- 1 発表会の内容・進め方を確かめる。
- 2 役割を決める。
- 3 朗読のくふう
- 4 朗読
- 5 (2)の(1)

朗読発表会での司会者
朗読発表会での司会者
朗読発表会での司会者
朗読発表会での司会者
朗読発表会での司会者

資料5 昭和54年度 前掲③「グループの話し合い」の手引き

グループの話し合いは、こんなふうに

- 1 A(司会)では始めます。よろしくお願ひします。
- 2 B(司会) よろしくお願ひします。
- 3 A(司会) では、学習の手引きによって進めます。
- 4 A(司会) この時間は、ぜひ手引きの1(2)をすませたいと思ひます。まず発表会の内容、ひとびにすすめるのが、権があります。発表会の内容、というプリントを見てください。
- 5 (見る、読む)
- 6 この七のところ、どうしましょうか。
- 7 今日、二まで終わることにするのだから、それはこの次までに、めいめい考えてきたらどうでしょう。
- 8 着成。プログラムの相援、どうですか。決めたいと思ひます。
- 9 着成ですけれど、ちよつと、今思いついてることを、きいてみる。

昭和54年度は、「話し合い」の仕方は、学び方を学ぶ単元である「国語発表会」の一部にしっかりと位置づけられている。そしてそれ以降、一年間を通して、年初に学んだ「話し合い」の仕方を繰り返し用いて、異なる学習材による単元が繰り返されていく。

3.3 昭和50年度、54年度1学期の配布プリント一覧による比較

<50年度>

<54年度>

	プリント名	内容	枚数		プリント名	内容	枚数
1	みんなの座席	座席表	3	1	中学校には	心構え	1
2	朗読発表会の準備、グループの話し合いはこんなふう	てびき	4	2	中学校での学習とは		1
3	朗読発表会 てびき	てびき	2	3	座席表	座席表	1
4	プリントの書き方	てびき	2	4	学習記録の書き方 例	てびき	1
5	テストについて	出題と注意	2	5	国語教室通信(1号～8号)	通信	
6	答案を見て	テスト解説	3	6	座席表	座席表	1
7	題材集め(作文)	フォーマット		7	自己評価表	自己評価表	1
8	国語教室通信(1～9号)	通信		8	漢字を使ってことばを書く(1)	漢字プリント	1
9	学習記録の作成	てびき	1	9	身につける ※漢字	漢字プリント	2
10	学習記録のあとがき	てびき	1	10	六年生のとき習った漢字、思い出し、確かめよう	漢字プリント	1
11	書こう話そう 学習のてびき	てびき	1	11	私たちの国語発表会の内容	説明	1
12	「クリちゃん」発表資料 書き方兼下書き用紙 五ミリ方眼	てびき兼下書き用紙	1	12	国語発表会 学習の手引き	てびき	1
13	発表資料プリントのてびき兼下書き用紙	てびき兼下書き用紙	1	13	グループの話し合いはこんなふう	てびき	3
14	クリちゃんこう言ってるかな	生徒作品集	48	14	「ひばりの子」朗読台本	朗読台本	2
15	テストについて	出題内容	1	15	開会のことば閉会のことば	てびき	1
16	みんな書けるようにしよう	漢字プリント	1	16	私の発見 —ああ、やっぱりよく書けている—	てびき	2
17	みんな読めるようにしよう	漢字プリント	1	17	評価表	評価表	1
18	答案を見て	テスト解説	4	18	テスト 答えと解説	テスト解説	4
19	灯台とハマナデシコ	教材プリント	1	19	国語科テストについて	出題内容	2
20	座席表	座席表	1	20	テストについて		1
21	集める(一) てびき「こういうときには、どう言ったらいいか」	てびき	1	21	大きい(形容詞) 大きな(連体詞)	学習プリント	1
22	こういうときには、どう言ったらいいか 学習のてびき	てびき	1	22	国語の力と、その力を計ること。テストとは、どういうことだろう。	てびき	1
23	集める(二) だれがどのことばの用例を集めているか	集めていることば一覧	1.5	23	学習記録作成のてびき	てびき	3
24	集める(二) 参考資料	参考資料	1	24	夏休みの国語科読書	課題	1
25	暑中見舞い てびき	てびき	2				
26	読書生活の記録を見て		1				
27	暑中見舞い記入用はがき裏表	用紙	1				
28	夏休みの国語学習	てびき	1				

50年度と54年度の配布プリント一覧に見出される違いを5点挙げる。

- ①昭和54年度は、「中学校では」「中学校での学習とは」「国語の力と、その力を計ること」といった意味付け、意識付けのプリントが配布されている。
- ②昭和54年度は、「六年生のとき習った漢字、思い出し、確かめよう」などの復習プリントが配布されている。
- ③昭和50年度は、「生徒の作品集」、「生徒がつけた名前一覧」といったプリントが配布されている。これは、昭和54年度には見られない。
- ④昭和54年度は、2学期にも「話し合いはこんなふう」にといったプリントが配布されている。「話し合い」を、1～3学期のほとんどの単元で取り入れている。昭和50年度は、実際の学習の中で「話し合い」が用いられていても、年間を通して繰り返し「話し合い」という方法を用いるという意識が明確ではない。
- ⑤昭和54年度は、「文節・単語」「品詞のいろいろ」などの言語事項に関するプリントが配布されている。

単元の学習については、学習全体の概要を示して、学習者が単元での学習の全体を捉えた上で、現在行っている個々の学習活動の意味や位置を捉えやすくする工夫がプリントという形で行なわれている。全体との関係で学習の意味を捉え、何のための学習かといった意識を学習者が持ち、自覚的自発的な学習を促している。

「六年生のとき習った漢字」のような復習プリントは、50年には見られないものである。小中の学習内容の違いだけでなく、小中の系統をより意識し、中学校で身につけさせるべき国語の力を確実に学習者のものにしていこうという大村はまの意図がうかがえる。

学習記録の書き方、朗読台本などは、具体例を提示し学習内容を視覚化している。どの学習者にも理解できるようにことばによる「てびき」に加えて、完成物の具体を示している。

資料6 昭和54年度「学習記録の書き方 例」

学習記録

表紙やどのひもをもらって、けい紙やプリントを貼った。
表紙にラベルを貼る、題目や名前を書いた。
今日の感想

注意

1 は、という
2 物の名前を
はっさり書く
3 プリントを
くさい

(1)

学習記録の書き方例

中学校の国語
学習

別紙のプリントを貼ったり、プリントに書き入れたりしてから、先生のお話を聞いて、中学校の国語学習について考えた。
(感じたこと、わかったこと、考えたことを書く)

注意

1 もう一つのプリントを一番巻に書く。
2 自分の持っている得意書を書いてくる。
3 教科書に貼ると書いてくる

資料7 昭和54年度はじめに配布されたプリント「中学校には」

中学校には 小学校というよりちがったところがある。
なぜ、なぜだろう？

それは、あたりまえ、簡単なのわけだ。それは――

小学校は 子どもの学校
中学校は おとなになる学校
―― だからだ。

おとなになる学校だから おとなとしてしてはかまひ、こぼしな、
子どもの学校としても平気、してよかったことも

おとなの学校、いや、おとなになる学校だったね。
こゝでは、してはだめなことがある。

子どもの学校でしなかつた、しなかくてよかったことで、
こゝではしなかくてはならぬ、ことがある。

子どもの学校では、楽しいこと、等一、

おとなになる学校では、楽しさを見つけた、ことが大切。
子どもの学校では、やりたいと思ふことをやったろう。

おとなになる学校では、やりたいことは、もちろんやるが、
そのほか、しなかくは、ならぬ、こともやるんだ。

資料8 昭和54年度1学期配布プリント「六年生のとき習った漢字」

六年生のとき習った漢字、思ひ出し、確かめよう

1 落し物係―遺失物係
2 水泳禁止区域
3 宇宙船の旅
4 映画 スクリーンに映る
5 特別に日延べはしない、延期
6 川に沿って歩く、日本海沿岸
7 通行を許可する
8 我に返る。我は海の子のうた。
9 松声器、道路を拡張する。
10 御路橋、中原街道。
11 上巻下巻、巻々入
12 指揮者、指揮

13 深呼吸、みづを吸う。
14 胸田、胸回り。
15 郷里、故郷の山。
16 入会を勧める。
17 会社に勤める。
18 勤労感謝の日。
19 へそ教、尊敬する。
20 警報、警察。
21 日本国憲法
22 権利。
23 権し、提出日厳守

(「しなかくは、ならぬ、こともやるんだ」)

毎日のことばから

1 放課後
2 学科教科
3 朗読
4 紹介
5 提出
6 司会
7 担当の箇所
8 笛奏者
9 保護者
10 保健委員

11 情報
12 遅刻
13 辞書
14 図書館
15 參觀
16 廊下
17 避難訓練
18 朝礼
19 学期
20 成績

21 訪問
22 面談
23 面接
24 白靴車
25 事故
26 確認

資料9 昭和54年度最初の単元「国語発表会」で配布された大村はま作成の「ひばりの子」朗読台本

「ひばりの子」朗読台本

その声は、不意に正三の頭の真上で聞こえた。

それは、うれしくてもならないような、本当にかわい。

らしい、声であつた。その声は、正三の頭の真上の空から、

いきなり動きだした。せんまい、ひかけのおもちやの自動

車は、何れのように、勢よく鳴りだしたのだ。

それを聞いたとき、正三は、思はず立ち止まって、

あ、あのひばりの子だ。

ひばりの子

おとなになる学校だから、おとなとしてしてはかまひ、こぼしな、
子どもの学校としても平気、してよかったことも

おとなの学校、いや、おとなになる学校だったね。
こゝでは、してはだめなことがある。

子どもの学校でしなかつた、しなかくてよかったことで、
こゝではしなかくてはならぬ、ことがある。

子どもの学校では、楽しいこと、等一、

おとなになる学校では、楽しさを見つけた、ことが大切。
子どもの学校では、やりたいと思ふことをやったろう。

おとなになる学校では、やりたいことは、もちろんやるが、
そのほか、しなかくは、ならぬ、こともやるんだ。

4. おわりに

3.1 で見たように、昭和54年度は、「主体的に積極的に学習生活に取り組む意欲的な子どもにする」「自分の育て方学び方を身につけさせる」が、年間国語カリキュラムを貫く目標であった。前者を達成するためには、後者が必要であると大村はまが考え、年間カリキュラムを組織したと考えられる。単元と単元の繋がりや大単元の中の小単元の役割についての意識を指導者が明確に持っているか否かが、手引きの具体にも関わっている。学習の全体像を学習者に示し、現在の学習の意味や位置を全体との関係の中で捉えさせていこうとする大村はまの強い意識が昭和54年度には働いていたことが見てとれる。「自己教育力の育成」が教育改革の基本方向の一つとして打ち出されたのは、昭和58年11月の中央教育審議会教育内容等小委員会の「審議経過報告」においてである¹²⁾が、それ以前から大村はまは「自分の育て方学び方を身につけさせる」といういわば「自己教育力」そのものの育成を念頭において国語科の年間カリキュラムを組織していたと考えてよいだろう。

また、54年度の言語事項に関するプリントは、「確実な学力」を育成するための、知識の整理と活用といった具体的な手立てを示唆している。「確実な学力」を単元の中で、また単元の外でも付けていくといった、現在の教科書の単元配列に近いカリキュラム意識が大村はまにあった証左である。

今回は、1年間の実践を、指導者大村はまのカリキュラム意識という観点から捉えることを試みた。学習者が何を考え、学んだかという観点からの分析考察は今後の課題としたい。

注

- 1) 坂東智子 (2011) 「大村はまの年間カリキュラムに位置づく入門期古典学習指導」全国大学国語教育学会『国語科教育』第69集、pp.51-58.
- 2) 大村はま (1982) 『大村はま国語教室 第1巻』筑摩書房、pp.301-314.
- 3) 大村はま (1984) 『大村はま国語教室 第12巻』筑摩書房、pp.107-243. 1年生最初の学習記録指導のさまざまな実践例と学習記録指導の工夫が示されている。
- 4) 大村はま (1983) 『大村はま国語教室 第4巻』筑摩書房、pp.207-219. 「ひばりの子」(庄野潤三作)、「爪王」(戸川幸夫作)の朗読台本(いずれも1年生の実践)を所収している。
- 5) 大村はま(1983)『大村はま国語教室 第3巻』筑摩書房、pp.215-294. 昭和54年11月実践の古典単元のテキストなどを所収している。
- 6) 4) に同じ、pp.319-392. 昭和54年11月の実践。
- 7) 昭和50年度1年A組で全学期の学習記録が保存されている2名の学習記録をもとに作成。I Kさん(学習記録No.5011A02、5012A02、5013A02、5123A01)、K Kさん(5011A40、5012A40)。
- 8) 1) に同じ。
- 9) 2) に同じ、p.311.
- 10) 大村はま (1983) 『大村はま国語教室 第2巻』筑摩書房、pp.319-337.
- 11) 2) に同じ、pp.313-314.
- 12) 河野重男 (1990) 『新教育学大事典第3巻』「自己教育」第一法規出版、pp.400-402.

【附記】本研究は科学研究費(課題番号24830055)の助成を受けています。